
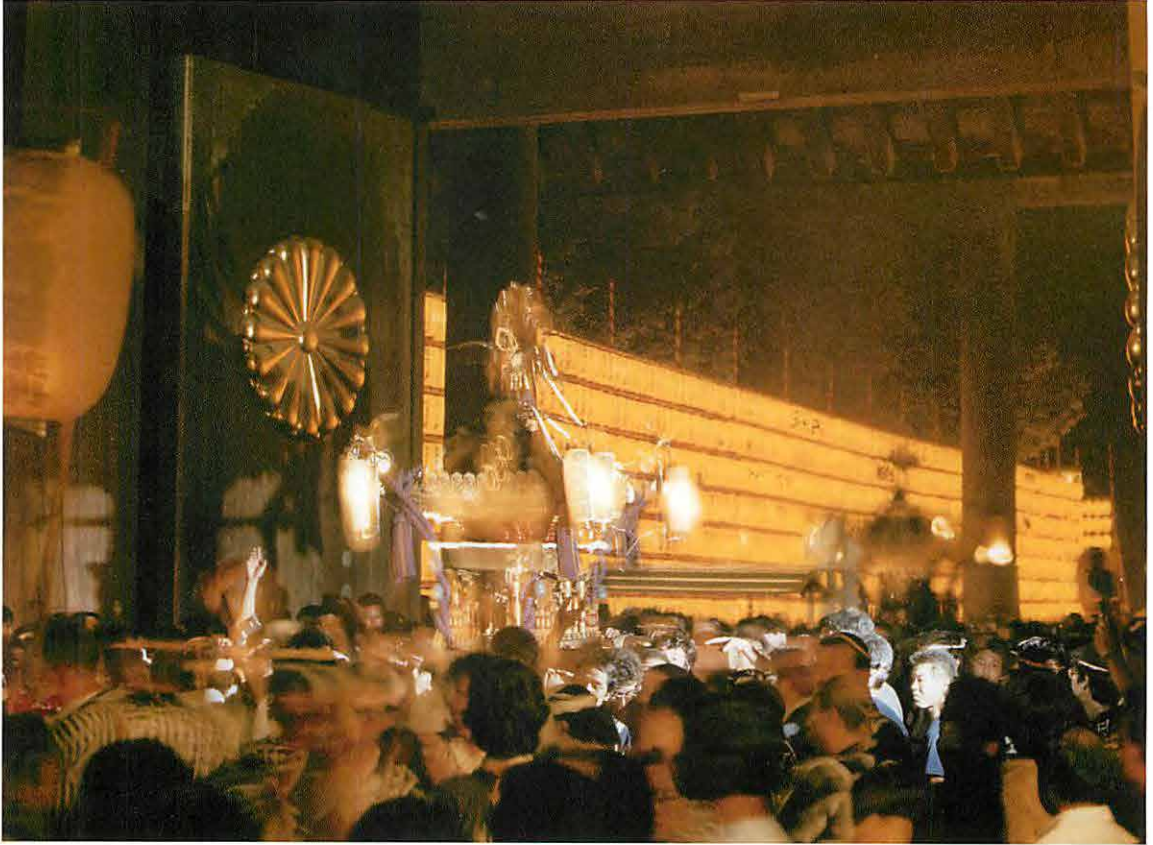


本部だより

●第 20 号

 マーシャル方面遺族会

●環礁・本部だより第 20 号 ●発行日：平成 21 年 8 月 1 日 ●発行人：黒川誠
●マーシャル方面遺族会本部：〒142-0051 東京都品川区平塚 3-4-17
●電話 03-3783-8382 ●FAX03-6410-4420 ●振替番号 00100-0-93487



みたままつり(靖国神社)

今年も「マーシャル方面遺族会」の靖国神社での慰霊祭が満開の桜に迎えられるのがなく斎行されました。

社殿の周囲はまさに桜花爛漫の心を和ませる景色でした。また、往時を思い出させ、寂しさを募るものもありました。

参集殿前には例年通り受付が設けられており、役員の方々のお世話とご苦勞に感謝をいたしながら参集殿に入りました。

例年ですと多くの団体の受付があり大変な混雑でしたのに、今年はいかがしたものか二団体しかなく、寂しさ戸惑いを感じたのは私だけではないはずで。

参集殿でさらに驚いたのは、我が「マーシャル方面遺族会」の他に参拝団体がなく、例年の混雑が嘘のようであり、広い参集殿が閑散としており、愕然といた

平成二十一年

慰霊祭 総会 直会

桜花爛漫の慰霊祭斎行

石川 勲 (東京都)

参集殿と桜

ジベ・カブア駐日大使と黒川誠本国会会長



参集殿前の受付風景

しました。
 待つことしばし、定刻に昇殿、国歌吹奏に始まり、供物の奉奠、神官による祝詞奏上、黒川会長の祭文に続いて、全員で参拝し、慰霊祭は無事終了いたしました。

ジベ・カブア駐日大使のご参加

今回特筆すべきことは、ジベ・カブアマーシャル諸島共和国駐日大使の参拝でした。

これからマ共和国と本会の末永い友好が始まる時、今回の慰霊祭参加者が八十数名で、昨年と比べると二十名以上の減少は何を表しているのでしょうか。終戦から六十四年、間違いなく遺族の高齢化が現実になっています。参加したくても一人で遠隔地からの上京が困難になったことだと思います。

来年も慰霊祭が来ます。大勢の会員の方々に参拝をしていただくには如何にしたら良いのでしょうか。今年のような寂しさを感じない人出を期待したいと思います。

慰霊祭出席者名簿

敬称略

- 青森県 須藤明子 宮城県 佐藤勉 山形県 長岡正昭 福島県 富田キミ 鈴木ヨシエ 根本さとみ 茨城県 北條晃 神永栄子 鈴木やよい 栃木県 菊地彦 巨 埼玉県 西勝章夫 小野博孝 小野トキ子 藤田羊一 大井和子 小松順子 佐藤知子 高林芳夫 小室貞男 小室洋子 小田原利子 千葉県 石井健蔵 泉水堯恵 相川孝夫 東京都 黒川誠 石川勲 藤縄安子 晝間志津子 荒木常子 間々田征史 間々田邦子 田島昭男 田島智恵子 石塚文子 西田恒子 水野貞二 水野薫 星野綾子 会田くに 内海淑子 中村順子 中村秀夫 番場信子 谷梯初枝 石川章子 浜田つき子 草場寛 山口良二 小林法子 坂本美枝子
- ジベ・カブアマーシャル諸島共和国駐日大使 グレッジ・ドボルザーク 神奈川県 安威和子 佐藤隆一 佐藤章子 柳沢弘子 平井貢 鈴木友季子 鈴木進 岡野智津子 梶谷友孝 森井静子
- 長野県 油井芳枝 荻原京子 富山県

直会スナップ



広島正光氏と扇原美智子氏

総会スナップ



総会スナップ

- 式次第
- 一、開会の辞
 - 二、会長挨拶 会務報告
 - 三、会計報告
 - 四、役員改選 新会長の選出
 - 五、新会長の挨拶 役員員の選出
 - 六、国内の慰霊行事
 - 七、現地慰霊巡拝の報告
 - 八、その他

総会

総会は靖国会館（偕行の間・西）において正午から開催されました。

高林芳夫幹事の司会、山口良二幹事の議長で式次第通りに進行了しました。

- 広島正光 扇原美智子 新潟県 山田良郎 愛知県 浜田芳枝 鈴木りよ（他四名） 岐阜県 吉田正明 堀尾洋平（他二名） 広島県 瀬戸隆子 瀬戸作次 香川県 松原敦子 石川妙子 金森佳子 眞鍋正美 眞鍋信一 愛媛県 兵頭義彦 奈良県 山中美子 山口県 櫛崎馨 福岡県 平田郁子 石松順子

九、閉会

本年は役員改選の年で満場一致で黒川誠前会長が選出され、役員は、荒木常子 常任幹事、幹事には高林芳夫、山口良二、草場寛、晝間志津子、岡野智津子の五氏、監査役に内海淑子氏が会長によって指名されました。

国内の慰霊行事は、五月二十五日に千鳥ヶ淵墓苑拝礼式、七月十五日に永代神楽祭命日祭、八月十五日に全国戦没者追悼式、東京都戦没者追悼式、十月下旬に沖繩戦没者追悼式が行われます。

本会の現地慰霊巡拝は、来年度に行う予定です。

直会

定期総会終了後、同会場を組み替えて直会を開催致しました。

参加者は年々少なくなりましたが、ドボルザーク氏を迎えて、和気藹々の直会となりました。同氏は「ジベ・カプア大使の慰霊祭参加が示しますようにマーシャル国と本会の友好が始まりました。前年の現地慰霊ではマーシャル人との交流

会が盛大に行われました。日米戦の陰にはマーシャル人の存在があったことを忘れがちですが、今後も友好的な交流が行われるのが現地慰霊の意義を深めることになると思います」と述べられました。

前年の現地慰霊に参加された広島正光 扇原美智子氏（富山・兄妹）も慰霊と交流会の模様を報告して戴きました。午後三時に終了。

会員減少に伴うこれからの慰霊祭

石井勲氏による慰霊祭報告にもありますように、本会の慰霊祭においても年々参加者の数が減少しています。黒川会長は次のような内容で「新会長の挨拶」で、その考えを述べられました。

「皆さんもお感じのように、本会の慰霊祭、定期総会、直会へのご参加が会員会友の高齢化に伴って減少しています。

ご参考までに申し上げますと、平成十八年度の出席者は百八名、十九年度は百七名、二十年度は百十名、そして本年は九十五名です。

原因は高齢化による体力の衰えと付き

平成20年度 会計報告書

マーシャル方面遺族会

自：平成20年1月1日
至：平成20年12月31日

1) 一般会計収支計算

収入の部

科 目	金 額
前期繰越	957,056
賛 助 金	981,000
受 取 利 息	425
雑 収 入	37,995
年 会 費	17,000
寄 付 金	12,000
小 計	1,048,420
合 計	2,005,476

支出の部

科 目	金 額
慰 霊 費	518,724
広 報 費	559,666
会 議 費	112,496
雑 費	80,498
振替手数料	25,500
公租公課	0
小 計	1,296,884
次 期 繰 越	708,592
合 計	2,005,476

2) 一般会計財産目録


平成20年12月31日現在


資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	54,442		
普通預金	536,389		
郵便振替	117,761		
		次期繰越	708,592
合 計	708,592	合 計	708,592

3) 特別会計

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前期より繰越	9,000,000		
		次期繰越	9,000,000
合 計	9,000,000	合 計	9,000,000

※定期預金および定額貯金として保管

会長 黒川 誠 

会計 荒木 常子 

添いなしでの出席が不可能となっているのです。現在の会員、会友の方々は八十歳以上の方が殆んどです。それに追い討ちをかけるように毎年物故される方がありますから、今後は益々少なくなりそうです。

ご存知と思いますが、靖国神社で発行されている会報「靖国」の最終ページには、毎月齋行される陸海軍、各部隊名で慰霊祭予定が掲載されていますが、それも年を追うごとに減り、解散を余儀なくされています。

私事になりますが、所属していた陸軍北支那派遣軍春第二九八六部隊砲兵隊の記念植樹が神門近くにありますが、これも隊員の高齢化で慰霊祭は十五年前に廃絶となりました。

恐らく現在の合同慰霊祭と称する団体もこのような状況になり、縮小か解散になるでしょう。戦後六十五年以上も経過した現在では、父の顔も知らない遺児や戦争を知らない世代の人達が多くなっている平成の時代は、さらにこの傾向が広がりをみせています。

会員、会友が故人となった後、その家族が会員を継承してくれれば良いのです

が、遺族会の関係は親の代で打ち切りになる場合がほとんどです。

靖国神社では、単独での昇殿参拝は百名を最小限と考えています。従って五十名前後の参拝者数となりますと、他の団体と合同で齋行するようにと言われています。

私共役員は参加者が何名になろうとも慰霊祭を続ける所存ですが、何時の日かのことを考えてご英霊の御霊に奉慰顕彰が永代にわたり出来る永代神楽祭を申し込んでおりますのでご安心戴きたいと思えます。

戦没者遺児の皆さんへ

日本遺族会では、平成三年より政府の委託ならびに補助を受けて、「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」を実施しています。

この事業は、戦没者遺児に対する慰霊の一環として父を国に捧げた戦没者遺児が一度は亡き父の眠る地に赴き、心行くまでの慰霊追悼を行うと共に友好親善を深めることを目的としたものです。

平成二十一年度は、十六地域を計画されていますので、関係遺児の方々の多数のご参加を呼びかけています。参加者が募集人員を上回る場合は、遺族会本部で選考の予定です。

- 実施地域 別表通り
- 参加資格 戦没者の遺児
- 費用 国内・五万円 外国・十万円
- 過去五年以上前にこの「慰霊友好親善事業」に参加された方で、再訪問をご希望の方は、「マーシャル方面遺族会」本部までお問い合わせ下さい。
- 申し込み方法 在住する各都道府県遺族会事務所へ。

平成 21 年度戦没者遺児による慰霊友好親善事業概要

	実施地域	実施時期	募集人員
1	旧満州	平成21年7月上旬	30人
2	旧ソ連	平成21年7月中旬	45人
3	西部ニューギニア	平成21年8月下旬	35人
4	マリアナ諸島	平成21年9月上旬	40人
5	中国	平成21年9月中旬	75人
6	東部ニューギニア	平成21年10月上旬	70人
7	ボルネオ・マレー半島	平成21年10月中旬	30人
8	トラック諸島	平成21年10月下旬	20人
9	パラオ諸島	平成21年10月下旬	20人
10	ソロモン諸島	平成21年11月上旬	30人
11	フィリピン	平成21年11月中旬	120人
12	ミャンマー	平成21年11月下旬	60人
13	沖縄	平成21年12月上旬	50人
14	台湾・パシール海峽	平成22年1月中旬	30人
15	マーシャル諸島	平成22年2月中旬	18人
16	ギルバート諸島	平成22年2月中旬	15人

追悼の島

東京大学大学院情報学環・歴史学博士

グレッグ・ドボルザー

この頃「追悼」の大切さをよく考えている。昨年十一月のクワジェリン環礁現地慰霊にも今年四月の靖国の慰霊祭にも参加させていただいたが、今回で三回目の貴重な体験だった。2004年に博士課程のクワジェリン環礁の研究を始めたが、2007年の博士論文終了までの三年の間、たくさんクワジェリンの日本各地からの若い戦没者の話をたくさん聞かせていただいたおかげで、その戦没者に随分親しみを感じるようになった。それは、マーシャル方面遺族会と出会うことができなかつたら不可能だったと思うので、いつも心から有り難く思っている。

アメリカ人でありながら、私はマーシャルにも日本にも人生の三分の一ずつ住んだ経験があり、さらにオーストラリアの首都キャンベラにあるオーストラリア

国立大学で博士の研究をしていたこの「クワジェリン」というキーワードをいろんな角度から見ることができた。

クワジェリン環礁の日本人遺族だけでなく、マーシャル人、韓国人、そしてアメリカ人の遺族とも関わる事ができたし、そのおかげで、太平洋戦争の前後や現代の日米関係におけるマーシャル諸島の人間的な歴史をより深く理解することができた。兵隊さんやいわゆる「島民」たちの気持ちなどを直接経験することができなくても、いろんな話を聞いて、みなさんと涙を流すことによって自分の故郷、クワジェリンを通じて、追悼と平和の大切さを感じることができたのである。幸運にも昨年3月に、私の博士論文、「Remembering the Coral and Concrete of Kwajalein Atoll」〔珊瑚とコンクリート―クワジェリン環礁の「記憶」について〕が合格し、博士号をとることができた。

今回の現地慰霊のとき、「追悼の言葉」を初めて頼まれた。幼い頃から、あそこの慰霊碑を何度も見て、一人で花をあげたりしたことがあったけれど、遺族の方

とともに、声を出してクワジェリンの戦没者に話したのが初体験だったので、随分緊張したけど、心から感謝の気持ちを伝えることができてすごく嬉しかった。

いつも慰霊碑の維持管理をしているクワジェリン環礁の米軍基地環境部の考古学者、レズリー・ミードさんも初めて参加したし、子供の頃クワジェリン島やロイ島に住んでいた私の「マーシャル人のおじいちゃん」であるアト・ランキオさんと奥さんのネイロンさんも、今回初めて現地慰霊祭に参加されたマーシャル人になった。

慰霊祭のときも、その後のイバイ島での交流会のときも、日系マーシャル人や当時を生きた現地の方と日本の遺族やアメリカ人と過ごし、唄を歌ったりできて、鳥肌がたつくらいとても感動した。やはりクワジェリン環礁の島々のように、私たちが目に見えないところで、国や歴史が違って、海の下で珊瑚礁みたいに繋がっていると思った。

満開の桜の下で、同じようにクワジェリン環礁の追悼の大切さを感じた。四月四日にマーシャル諸島共和国の駐日大

使、ジベ・カプアさんと一緒に靖国神社での慰霊祭に参加させていただいた。カプア大使は、マーシャル諸島共和国初代の大統領でもありイロージラプラプ（＝大酋長）であったアマタ・カプア氏の長男で、お母さんは南洋貿易会社の日本人とマーシャル人の貴族の娘なので、日本時代の歴史に深い関心がある方である。「一生懸命戦って戦没した男たちとその遺族の気持ち分かるし、私たちマーシャル人もその悲しい時代と一緒に苦しんだので、平和と友好のために一緒に追悼させていただけで光栄だ」と話していた。慰霊祭に参加しながら気づいたが、境内の外に、「右翼」や「左翼」団体の放送や軍歌の音が聞こえてくるのに、本殿の中では神主の祈りの言葉やカラスの音以外、平和な沈黙だった。純粹に大切な人を亡くした人々の追悼だけでなく、平和への祈りでもある。靖国神社の中でも、悲しみを癒してくれるクワジェリンの波の音が遠くから聞こえてくる。

地球上、戦争を知らないところは存在しない。今でも激しい戦争が続いていく。しかしその中で、美しく静かなクワジ

エリン環礁は、追悼の島でもあり、平和の象徴でもあると思える。東西南北を結ぶ広い太平洋の真ん中にあり、不思議な運命で様々な人の歴史を結んでいる。その珊瑚の砂の下で眠られる方々も優しく包みつづけていく。

世界の若者がこのような本来の人間的な歴史をより知ることができれば、確実にすばらしい平和が生まれるのではないかと思う。これからマーシャル方面遺族会との交流を深めながら、私の本を英語や日本語で出版し、日本の大学でやつとこのような事実を教授として教えることができればと思う。

是非、今後も、遺族の皆様とクワジェリンのような太平洋に浮かぶ島々の貴重なメッセージを世界に伝えたい。

徳原徳子さん歓迎会

岡野智津子（神奈川）

本誌で何度もご登場戴いている篤志会員の徳原徳子さん（ハワイ在住）は、申し上げるまでもなく「マーシャル方面遺



徳原徳子氏(左から3人目)と役員一同

族会」の恩人といふべきお方です。その徳原さんは横浜のご出身で、毎年春秋二回墓参その他で来日していらつしやいます。四月二十七日、本会の役員（黒川誠会長、荒木常子、内海淑子、高林芳夫、草場寛氏、そして私）の六名が揃い、横浜駅近くの横浜スカイビル二十八階「五穀五菜酒家・陸風」でささやかな歓迎の会を催しました。

本会でお世話になりながら、徳原さんがどうして南の島に行かれたのかお聞き

する機会がありませんでしたので、根掘り葉掘り伺ってみました。黒川会長も始めて何う話に興味深くなさっておられました。

その内容は戴いた「一通の手紙から」にありますのでご覧下さいませ。

歓談後、来秋の再会を約束してお別れ致しました。

一通の手紙から

徳原徳子

遺族会と私との糸の結びつきは一通の手紙がきっかけでした。

私がマーシャル諸島マジユロ島で働くようになってから間もなく、浮田信家さんという未知の人からの手紙を受け取りました。

当時、日本とミクロネシア諸島の間を二隻の貨物船が往復していました。「パシフィック・アイランダー」と「ガンナーズ・ノット」で、日本からの輸出貨物をミクロネシアの各島に下ろし、代わりに現地の産物、主としてコブラを積んで

日本に帰るといふものでした。

「ガンナーズ・ノット」のゴー船長から頼まれたと言つて、一人の男性が私の宿舎に浮田さんからの手紙を持ってきたのですが、私はゴー船長との面識はありませんでした。

浮田さんからの手紙では、「マーシャル方面で戦死した日本の軍人たちの慰霊のために現地を訪れたい、そして最終目的はクエゼリンに慰霊碑を建立して、遺族たちが参詣出来るようにしたい、しかし現地の事情は何一つわからないので、藁にもすがりたい気持ちでこの手紙をしたためた」という趣旨のことが切々と書かれてありました。

浮田さんたちは手掛かりをつかむために、横浜に停泊していた「ガンナーズ・ノット」を訪れ、ゴー船長に会い様子を尋ねたところ、「ミス・ヤマダ(私の旧姓)」という日本人女性が働いていると人づてに聞いたと語り、その内容はかなり曖昧だったということでした。ただそれだけを手掛かりに、浮田さんは私への手紙を船長に託したものでした。

私は半信半疑でしたが、もし本当なら

握りつぶすのは失礼と思い、手紙に記された質問事項に回答しました。すぐ折り返し返信があり、「暗闇で探しものをしていた時、パッと明りがついたような気持ちでした」と喜びとお礼を述べていました。

それから浮田さんとの頻繁な通信が続きました。やがて佐竹エスさんと共に慰霊の旅に出発し、二人がマジユロに着いたのが1967年だったと記憶しています。

その頃私はクエゼリンから休暇でマジユロを訪れていた徳原勇(夫・故人)と知り合いました。生憎マジユロで流行性肝炎が蔓延し、島は封鎖され、すべての人は島から出ることを禁じられました。そんな時浮田さん、佐竹さんが到着したのです。クエゼリンに帰れず、島に閉じ込められた徳原も、荷物の運搬などを手伝い、食事も共にするなど、思いがけず浮田さんたちと徳原とが親しくなる機会を得ました。

浮田さんたちはマジユロから更に南方のマキン、タラワなどを訪れるため、私の働く会社の船をチャーターしました。

社長のアマタ・カブア氏から私も同行し、手伝うようにと命じられ、私は喜んで承諾しました。

戦跡を慰霊のために訪れるという目的であることから、厳粛な気持ちではありましたが、同時に戦後まだ日本人が訪れたことのない島々を回る機会を得たことに、私は興奮していました。どの島を訪れても、私たちは歓迎され、協力を得て、慰霊祭はつつがなくとり行なわれまし

た。私たちの乗った船の船員たちや多くの島の人も参列して下さいました。船の旅の間、色々なことがありました。

戻りの航海の途中、或る島で急病人が出たという緊急通報があり、その島に寄港しました。出産後に出血が止まらないと言う女性患者でした。残念なことに、マジュロに着く前にその女性は息を引き取りました。生まれた赤ちゃんはその後元気に育っているということを知りました。



激戦の中で一本残った墓標のようなクエゼリン島の椰子の木(徳原氏提供)

船にあまり強くない私は船酔いに苦しんだこともありました。浮田さんも佐竹さんも意外にしぶとく、船がどんなに揺れても平然としていました。佐竹さんが親しく話しかけてきても、気分が悪かった私はそつけない態度でした。いまだに後悔しています。

航海中は飲酒が禁じられているにもかかわらず、船員の一人が飲んだということとで大きわざをしたこともありました。

星のきらめく夜空を指して、あれが南十字星だと私に教えてくれた船員もいました。赤道を通過した時、船の汽笛が鳴り響き、皆が歓声を上げ、手をたたきました。

慰霊の旅は成功でした。マジュロに戻ってからは、日本からの船が着くまでの間、浮田、佐竹両氏は島の生活を満喫したようです。ピクニックに参加したり、パーティーを開いたり、島の人たちとの親睦を深めました。

慰霊の旅は成功したものの、まだクエゼリンに慰霊碑を建立するという大事業が残っていました。しかしこれは徳原やその仲間たちの努力と米軍側の理解と協

力で無事完成しました。

もし私が徳原と結婚しなかったら、彼は遺族会と関係を持つこともなく、したがって慰霊碑の建立がどのようなことになっただのか想像が付きません。まるで遺族会のために私たちはめぐりあい、結婚したみたいだと、二人で冗談を言っていたこともありました。

外国の軍用地で、日本人戦死者の慰霊碑建立作業が、すべて非日本人の手で進められたということに大そう意義があると思います。

その協力者の殆どがすでに他界しました。私はこの人たちに「ご苦労様」を言いたくて、そして「有難う」を言いたくて、去る2001年7月、私の働くハワイの新聞に記事を載せました。一部黒川会長に送りましたので、読んでいただいたと思います。

南の島々の慰霊、クエゼリンに慰霊碑建立、現地訪問という当初の目的は多くの人たちの協力により達せられました。これからも、遺族のかたがたの慰霊碑訪問は何の支障もなく続くものと信じています。

このように、遺族会と私とのご縁が、浮田さんからの一通の手紙から始まったことに、私は不思議な運命の糸を見ました。 終

寄付者芳名

●ご敬称、さらに都道府県名は頭文字表記に略させて戴きました。

◇一万二千元

番場信子(千) 井上照美(鳥)

◇一万元

黒川誠(東) 晝間志津子(東) 岩佐とみ

(千) 吉松貞子(福岡) 宮城幸子(沖)

◇七千元

岡島みね子(愛知) 川本彦次(京) 大見

シノブ(愛知) 服部くにゑ(静) 山下タ

エ(長崎) 廣原実(千) 奥井禮子(広)

兵頭義彦(会) 野島貞人(高) 馬場富美

子(大) 内海静枝(東) 久保田泰子(愛

媛) 黒川正文(山梨) 熊澤静子(神) 宮

崎実(千) 渡部守(愛媛) 伊藤梅子(愛

媛) 奥田義寛(奈) 佐々木千鶴子(広)

◇六千元

平田郁子(福岡) 小田原利子(埼) 近藤

マスエ(埼)

◇五千五百円

石川正興(香)

◇五千元

金子武晴(神) 相馬ツキ(宮城) 石渡綾

子(神) 植田敏裕(広) 安藤昌子(愛知)

山田キヨエ(新) 富田ミツ(福島) 石川

きみ(千) 鈴木裕子(埼) 坂本美枝子(東)

◇三千五百円

丹野好啓(山形) 山口久幸(長野)

◇三千元

長谷川智子(東) 川名茂子(神) 石川勲(東)

高坂和靖(東) 中村順子(東) 腰川妙子

(千) 小杉サヨ(岩) 高林芳夫(埼)

小島八重子(東)

◇二千元

郡義典(会) 大畑幸夫(静) 吉田正明(岐)

油井芳枝(長野) 滝澤弘一(長野) 萩野

松枝(福岡) 野崎昭二(静) 馬場清(愛

媛) 福井栄子(和) 荒木常子(東) 下川

与三郎(青) 田中猛(東) 福田音和(大)

藤本正(広) 井上賀雄(東) 西田恒子(東)

根本さとみ(福島) 鈴木やよい(茨) 土

田利子(熊) 東地位義則(京) 石丸進(新)

川越コウ(鹿) 谷澤英子(千) 三好エミ

子(愛媛)長岡俊夫(愛媛)枝光剛郎(兵)
藤木義房(富)広上敏夫(富)吉永峯生
(山口)大塚喜久雄(愛媛)岡野智津子(神)

高山満喜男(千)尾上一郎(会)須藤明

子(青)大高吉郎(東)古市光男(福島)

平井加代子(神)千田恒子(埼)佐藤亨

三(岩)森井静子(神)佐藤知子(埼)

打矢和子(秋)富川佳代子(香)鈴木ヨ

シエ(福島)池田淑子(富)植川二男(熊)

宮下勤子(長野)豊谷美恵子(千)豊谷

秀光(会)北條晃(茨)浦手ハル(広)

浜田つき子(東)山口良二(東)山村一

郎(愛媛)草場寛(東)

◆一千五百円
天野好子(埼)橋本強(埼)菊地彦亘(栃)

堀尾洋平(岐)小田原利子(埼)

◆一千元

間々田征史(東)小野博孝(埼)安威和

子(神)谷梯初枝(東)浜田芳枝(愛知)

岩波邦江(東)瀬戸隆子(広)富川艶子

(埼)相川孝夫(千)

◆五百円

石井健蔵(千)右山定(熊)石井貞槌(埼)

柳村摩耶子(高)岩川あい(北)綾部は

つる(長野)野平ヨネ(鹿)柳沢弘子(神)

西森サツキ(神)鈴木友季子(神)片山
玲子(熊)神永栄子(茨)塚野ヨシ子(熊)

以上、計四十七万四千元。

千鳥ヶ淵墓苑拝礼式

黒川 誠 (会長)

五月二十五日、文字通り五月晴れの好
天に恵まれ墓苑周辺は新緑一色に飾られ
て快い緑風を受けながら式典が始まる。

三笠宮同妃殿下ご臨席のもと、献花が
始まる。麻生首相から順に遺族代表が続
く。参列者は殆どが高齢者で、招待席も
遺族席も同様である。舛添大臣は昨年は
陣頭指揮であったが、今年是新インフル
エンザ等々であろうか、副大臣に一任し
て不在であった。

さて、グレッグ氏から電話連絡があり、
クエゼリン基地の工事中に遺骨が出たと
のことである。DNA鑑定の結果、東洋
人のものであれば引き取らねばならない
が、平成九年(前佐藤会長の折)同様の
ことがあり、厚生労働省の職員が遺骨受
領に行き、成田空港まで出迎えに行きま

した。遺骨は段ボール箱(35×75×55セ
ンチ)に入って到着したことを覚えてい
ます。

遺骨は厚生労働省に保管されて、やがて千
鳥ヶ淵墓苑に無名戦士の英霊として納骨
されるのですが、その大きさは十五セン
チのサイコロ状の木箱でした。五十分の
一です。残りの遺骨はどうなったのでし
ょうか。このような扱いでは英霊に対し
て申し訳のないことです。

クエゼリン島は英霊が眠るためには絶
好の地と思いますが、皆様はどのように
お考えでしょうか。

訃報

●会員の山森久江さんが五月十六日にお
亡くなりになりました。

●南部利昭靖国神社宮司が一月七日急
逝されました。享年七十五歳。南部宮司
は、昭和十年九月十六日の生まれで、平
成十六年九月十一日、湯澤貞前宮司の後
を受け、第九代靖国神社宮司に就任。四
年四ヵ月に亙って重責を担われた。
謹んでご冥福をお祈り致します。

第47回マーシャル方面遺族会慰霊祭 平成21年4月4日 於 靖国神社



撮影 ツカモト写真館(靖国神社・九段会館指定)